

# 「諏訪湖の浚渫課題」ワーキンググループについて

諏訪地域振興局企画振興課

## 1 概要等

諏訪湖創生ビジョンの改定において新たな取組として明記された「利水・生態系保全を目的とした浚渫」について、地域では、実施の要望がある一方、生態系への配慮などから慎重な意見もあるため、諏訪湖創生ビジョン推進会議にワーキンググループを設置。試行的な浚渫の要否、実施する場合の実施箇所や方法等について検討し、合意形成を図る。

## 2 R7までの検討状況等

R5～R7年度で合計9回のワーキンググループを開催し、試行的な浚渫箇所を決定し実施

事業年度		R5	R6	R7
場所		初島周辺	ヨットハーバー付近	ヨットハーバー付近 (R6実施とは別の場所)
実施時期		R6.4	R7.4	R8.4(予定)
箇所概要		観光船の航路となっており、観光客が多く訪れる諏訪湖の観光スポットの一つ。ヒシの繁茂箇所の一つでもある。	ヨットや水陸両用バス、船舶の出入口。砂地でありヒシ繁茂は少ない。	ヨットや水陸両用バス、船舶の出入口。
期待できる効果	利水	観光船の航路確保 ヒシの繁茂抑制による景観改善	船舶の航路確保。国スポ競技に向けた整備への知見蓄積(諏訪市へ提供予定)	船舶の航路確保。国スポ競技に向けた整備への知見蓄積(諏訪市へ提供予定)
	生態系保全	ヒシの異常繁茂抑制	-	-
結果	利水	2700 m <sup>3</sup> 浚渫(60m×70mの範囲で水深3m確保できるよう浚渫)。航路への支障は部分的に解消	制限水位-1.5mとなる形で浚渫完了。航路への支障は部分的に解消	令和7年11月発注 令和8年1月契約 令和8年5月頃工事開始9月頃工事竣工予定
	生態系保全	浚渫前後で底生生物の出現種、個体数に大きな変化は見られない 水草は減少。主体はヒシ(浮遊植物)からマツモ等(沈水植物)に変化	底生生物の出現種に大きな変化は見られない。総量は浚渫前後で増加しているが、浚渫の影響であるかは不明 水草の増減について明確な傾向は見られない。浚渫前には見られたヒシが浚渫後は見られなかった。	(採取時期が10月末だったため、水草がほとんど存在しなかった。)
課題	利水	浚渫後、一定程度の土砂堆積が見られる。効果の持続性(堆積速度)の検証		
	生態系	・生態系の影響がどの程度であれば影響が少ないと判断するか整理が必要		
	その他	・効率的な浚渫方法(工法、浚渫場所、浚渫土処分含む)の検討		

## 3 令和8年度の予定

令和7年度の実績(浚渫工事、生態系調査等)、令和6年度浚渫工事箇所のその後の状況(土砂の堆積状況)をワーキンググループで共有し、R8年度の試行的な浚渫工事に関する検討、合意形成を図る。